大縣神社・田縣神社豊年祭

大縣（おおあがた）神社は犬山市、1キロほど離れて田縣（たがた）神社は小牧市にあり別の存在であるが、田縣のご祭神玉姫命（たまひめのみこと）は大縣出身という姻戚関係でもあり同じ豊年祭として考える。大縣の豊 年祭では女性器をご神体として担ぎ、田懸では男性器をご神体として担いで巡行するという誠に原始的でユーモラスなエロチシズム漂う祭として有名である。両神社とも祭礼日は違うが3月上旬行われるいわゆる祈年祭で、米の豊作を祈願する春祭である。

稲作は弥生文明であるが、人間の性器をご神体にするという発想はもう一つ歴史を遡り縄文の意識ではないだろうか。日本の祭はどの祭も歴史のレイヤー(層構造)を貫き縄文の古層に達するというのが私の仮説である。

更に、大縣神社の牧野武彦宮司の話は興味深かった。大縣神社の例祭(神社の誕生日みたいなもの)である豊年祭は従来神社関係者のみで行っていたが何時の頃か氏子たちが観光客にも見せる祭にしたいと、神輿をはじめとする練り物の先導に猿田彦（さるたひこ）を考えたという。猿田彦は古事記によると、天照（あまてらす）の命を受けた瓊瓊杵尊（ににぎのみこと）が天孫降臨の際最初の国津神(地上神)として道案内をしたいわば神話から歴史 の扉を開いたキーマンである。大縣の宮司は豊年祭にこの神話を登場させ、成功した。更に納得したのは、そもそも女性の神様である大縣神社が元宮であって、男性神田縣神社はそのお旅所(出張所のようなもの)であろうという考えだ。男女のプライオリティにおいてもここで日本神話を思い出した。太陽神で ある天照は女性であり日本民族はそもそも女性優先、ウーマンリブであったのではないか。神話は人間の集合的な潜在意識を形にしたものであり、象徴的な物語である。

ところでこの大縣神社に私は特別の思い入れがある。故郷犬山市の市長選挙に立候補した時この神社の崇敬会長が市内すべての神社を当選祈願に回ってみなさいとアドバイスしてくれた。人口78000人規模の犬山市に60近い神社があり、そのいずれもが美しく清掃された鎮守の森であり、氏神・産土神が 祀られ、絶えることなく粛々とその地域の祭が行われていた。これは行政や社会組織の網にかからない事実であり、新鮮な発見だった。神社を知るためのコード(暗号)を記す。

①社の由来を書いた「由緒書き」・②聖域への門「鳥居」・③穢れを祓う「手水舎 」（てみずしゃ）・④狛犬と眷属・⑤斉館・拝殿・本殿等「社殿」・⑥結界を示す「注連縄 」（しめなわ）・⑦ご神木・玉砂利の「境内」等であるが、大縣神社の場合境内から連続して奥山に至り、山頂に奥の宮がある。この奥 の宮こそがパワースポットである。さらに、平地方角へ約1キロ地点に4世紀築造の巨大な前方後円墳があり、神社のご祭神が埋葬されている。4世紀と言えば未だ列島は統一されていない部族国家だ。

この大縣神社は神話と古代史が重なって見えてくるドラマティックな神社である。

写真：デン真